

関東同窓会総会は会場とリモート両方で開催

前関東同窓会会長 上原 昇（2組）

上田高校関東同窓会の第60回総会は、6月26日（土）、千代田区一ツ橋の如水会館で開催された。今回はコロナ感染状況も勘案して、会場参加とリモート参加併用で行い、総会冒頭、近藤正昭会長（69期）はこれをハイブリッド総会と言っていたが、コロナ禍の中での新しい試みであった。

昨年の総会は、筆者が会長を交代するタイミングであったが、コロナ感染を回避するため、同窓会史上初めて会報紙面のみでの総会にせざるを得なかった。

今回、同期で会場参加は、監事として執行部に残っている原田義則君（3組）のみ。

リモートで参加は、モニター画面で確認できた範囲では、澤崎健一君（3）、宮原豊君（9）、山極時生君（10）と筆者の4人であった。

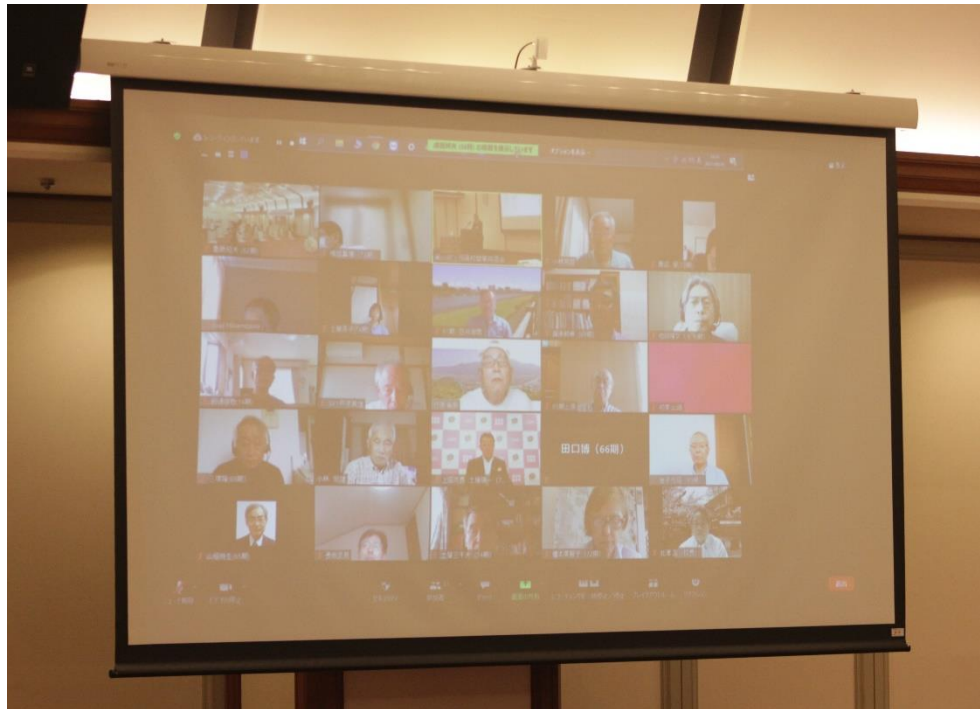
司会者によると、今回の参加者は会場60名、リモート60数名、計120数名で、これまでの総会の約半数となった。総会では通常の議事のほか、今年4月、母校校長に赴任の北澤潔さん（諏訪清陵高校出身）、同窓会本部理事長の金子元昭さん（68期）、関西同窓会会長の竹内俊隆さん（68期）からリモート来賓あいさつがあった。また、特別に上田市長の土屋陽一さん（73期）による上田からのスピーチがあった。

第1部総会は無事に終了して、第2部の講演会に移る。

【写真1：総会会場の様子（写真は小山勇さん（92期）提供）】



【写真2： 総会
会場モニターに
映し出されたり
リモート参加の顔
ぶれ】



講演会は、関良
基さん（86期、
京都大学（農）
卒、拓殖大学政
経学部教授）に、
『日本の近代化
の魁（さきがけ）

赤松小三郎と松平忠固』と題する話を約1時間してもらった。関さんの話の内容は著書「赤松小三郎ともう一つの明治維新」（作品社、16年刊）と「日本を開国させた男、松平忠固」（作品社、20年刊）に詳しいので、興味ある人は一読をお薦めする。

最後に赤松も忠固もその業績の割に、世間的には知られていない。評価を高めるためには「地元（上田）が顕彰し、全国区にしようとする限り、二人が復権することは難しい」と言っていたのが印象的であった。



【写真3： 講演する関良基さん】

関さんの講演会は昨年11月、上田でも行われていて、HP（20.12.4）に布施修一郎君（6組）のレポートが投稿されている。

いつもの総会であれば、その後、お楽しみの演奏会と懇親会となるのだが、今回はそれが出来ないのが残念であった。

総会実行委委員長の掛川治男さん（73期）のあいさつの中で、「アフターコロナの総会でも、リモート参加は必要になるだろう。会場に出かけられない人も参加できるというのは意味がある」と言っていたのは、その通りかもしれない。

コロナは確実に世の中の活動スタイルを変えたようである。

（2021年6月27日記）

以上